



みぬまニュース

第33回 自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』 4月19日(土)

見沼たんぼくらぶ総会の後、見沼たんぼ北西部を歩きました。見沼公園ではヤエザクラやウコンの華やかなサトザクラの花の波に見とれました。防風林に入ると、クサイチゴの群生地があり、清楚な白い花に心が洗われました。

見沼最大級の斜面林・大和田緑地公園は、さいたま市みどり愛護会のボランティア活動で手入れが行き届き、ジュウニヒトエやウラシマソウが林床に咲き乱れていました。誰かが「軽井沢に来たみたい。」と言いました。

私たちはまとまった森がCO₂(二酸化炭素)を大量に吸収し、地球温暖化に歯止めをかけていることを皆さんに訴え、皆さんも実感したようです。

(小野)

第34回 自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』 5月17日(土)

見沼公園でハンノキ、ラクウショウを観察して見沼代用水東縁を歩きました。ノアザミが鮮やかな紅紫色の花を咲かせていました。花の先をペンでちょっと突いたら色が変わった!花粉を運ぶ虫が来たと思ったのか「おしべ」が動いたのだ。「おっ、すごい!」と感嘆の声を発していました。



ノアザミの花

田植えしたばかりの加田屋新田では、ニホンアマガエルの鳴き声が聞こえ、シオカラトンボ、ベニシジミに出会い、加田屋橋のヨシの群生からはオオヨシキリさえずの囀りが盛んに聞こえて来ました。

染谷の農家の垣根にはカナメモチの花、エゴノキの白花も満開。ここ加田屋新田・染谷地区は昔ながらの原風景が残っています。ここでは様々な生き物と人間が共存していると改めて気付かされます。「生物多様性」の理想的な一つの姿がありました。

(関口)

農園づくりから

『サツマイモづくり体験(苗植え)』 6月8日(日)

梅雨入り直後の6月8日、大人子ども合わせて307人の参加で、見沼たんぼくらぶのサツマイモ「苗植え」が行われました。くらぶの理事でもある三浦農業委員の指導のもと、各自12本ほどの苗を分担して植えていきました。普段、あまり土に触れない子どもたちは、あちこちで歓声を上げます。苗植えそっちのけで虫を追いかける子どもたちも……。こうして、1時間ほどで無事、作業は終了しました。これらの苗は、夏場に至るところに蔓を伸ばし根を生やします。そこで、栄養を集中させ大きく立派なイモを作るには、根をはがす「蔓返し」や地道な「草取り」が待っているのです。夏の暑い日にはホントにしんどい作業、その先に、収穫の大きな喜びがあるんですけどね。

(S.佐藤)



サツマイモの苗植の様子

見沼たんぼの四季 『田植え』

5月初めから1ヶ月ほどの間、見沼では次々に田植えが行われます。植えられるのは主にコシヒカリです。水を張った田に、植えられたばかりの苗が風にそよぐ様は、この時期ならではのすがすがしい風景です。写真では、手押しの田植え機を使っています。後ろの田んぼにいる人は補植をしているところです。補植とは、田植えの後数日してから抜けているところを手植えして補うことです。

その後ろに黒く見えるのは、昨年までは田んぼでしたが、今年は耕作をやめて土を盛ってしまったところです。

見沼地区でも、毎年、こうして姿を消していく田んぼが後を絶ちません。

(高橋)



見沼たんぼの田植え

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

南部領辻の獅子舞

5月18日、「南部領辻の獅子舞」が、鷲神社の拝殿前の広場で奉納された。鷲神社の一带は、埼玉県「ふるさとの森」に指定されており、樹木に囲まれ鬱蒼とした境内には大勢の観客が集った。

この舞は、別名を「竜頭の舞」ともいわれており、二間四方の注連縄を張った中で行われる。舞を行う獅子は、角を有した太夫獅子と中獅子の2頭の男獅子、それに、角を有していない女獅子の計三頭で、女獅子、中獅子、太夫獅子の順に舞い、最後に3頭と一緒に災いや病魔等を追い払う舞を奉納し、およそ1時間の獅子舞を終るのでした。

いづれの獅子も、東天紅の羽根で作られた長い髪を背中に垂らし、腰には太鼓をしっかりと持っている。舞は、笛と箏(ささら)の調べに合わせて、自らの抱える太鼓を打ちながらダイナミックな動きを見せるが、その動きは天空をまるで舞っているようだ。このような動きがあるかと思うと、急に小さな動きになり、その動きは、大地をしっかりと踏みしめながら歩む様を思わせる。観るほどに、長い歴史を感じさせる舞で、華麗な中にも幽玄さを秘めており、この世ではない別な世界に、観客は誘い込まれてしまうほどでした。



この舞は、今からおよそ900年前、平安後期において笛の名手でもあった武将・源義光(1045~1127)が、兵士の士気を奮い起こすために行われた舞ということです。この舞が長年の間受け継がれてき、昭和30年代に埼玉県無形文化財に指定されたが、しばらくの間中断、平成12年10月15日、30数年振りに奉納される。以後は5月と10月の年2回、鷲神社に奉納され、平成15年4

月、さいたま市の無形民族文化財に指定される。
(召田)

画廊蔵

ひっそりとした小さな庭を通過して、白壁の蔵にはいると、そこは振り子時計のコツコツという音が心地良い喫茶店でした。

見沼区染谷のバス通り沿いにある「画廊蔵」は、100年ほど前に建てられた農家の米蔵を利用したギャラリー兼喫茶店になっていて、見沼たんぼの散策の休憩にはぴったりの落ち着いたお店です。



1階は喫茶店になっており、コーヒーや紅茶などの喫茶の他に伏島店長こだわりメニューのお食事もできます。店内にはピアノが置かれていて、ジャズやクラシックの演奏会も開かれるそうです。また、毎月第1、第3水曜日の午前中にはアコーディオンの演奏があるということでした。

2階はギャラリーになっていて、絵画や写真、陶芸などの色々な展示を行っています。取材に訪れた日は、10名ほどの作家さんの色々な趣向の陶器が展示されていました。

その他にお店では店長おすすめの食品などを販売していて、特に人気があるのが秩父産のこんにゃくや、ジャムということでした。

見沼たんぼの散策と合わせて、画廊蔵を一度訪れてみてはいかがでしょうか。(林)

画廊蔵

住所：さいたま市見沼区染谷 3-131

電話：048-689-0939

定休日：金曜日

そして今や、さいたま市内有数の希少植物の宝庫となりました。(小野)

見沼たんぼの植物

大宮台地大和田支台斜面に広がる大和田緑地公園は、見沼最大級の斜面林ですが、1995年(平成7年)まで放置されたままで暗い自然林に遷移をはじめ、下草が育たない状態にありました。それが、1996年(平成8年)から私たちが常緑樹の伐採とアズマネザサ刈りをはじめ、コナラ・クヌギを優占種とする明るい落葉広葉樹林に復元しました。

その結果、1991年(平成3年)以来の定点観測で姿を見せなかった植物が次第に自然復元してきました。木漏れ日ほどの日照が林床の野草の生育を促すからです。

1998年(平成10年)にはキンランが群落をつくりました。ところが、同年4月27日、「山野草愛好者」によってキンランの群落が根こそぎ持ち去られました。やむなく、一定の区域に柵を設け、希少植物を保護することにしました。1999年(平成11年)、ちぎられた根が僅かに残ったらしく、キンランが3株だけ開花しました。同年7月、ヤマユリがいつのまにか自然復元して見事な大輪を咲かせました。2001年(平成13年)、ワニグチソウが初めて開花しました。

大和田緑地公園に自生する絶滅危惧種

(国または埼玉県による指定種)

科名	種名
ラン科	キンラン
	ギンラン
	シュンラン
ユリ科	アマナ
	ワニグチソウ
ケシ科	ヤマブキソウ

大和田緑地公園に自生する注目種

(絶滅危惧種には指定されていないが市内では希少植物)

キキョウ科：ツリガネニンジン

キク科：カシワバハグマ

キンポウゲ科：アキカラマツ

スミレ科：マルバスマシレ

トウダイグサ科：ナツトウダイ

マメ科：フジカンゾウ

ユリ科：キチジョウソウ・ヤマユリ・ユキザサ

カニクサ科：カニクサ

ハナワラビ科：ハナワラビ・フユノハナワラビ

※ 他地域から移植した種は除きます。

見沼たんぼの動物

ヒバリの声のどかに聞こえてきます。石橋の上流、少し遠いところにカイツブリがいました。何かをくわえて盛んに振り回しています。どうやらアメリカザリガニのようです。アメリカザリガニは帰化生物ではあるものの、すっかり日本の自然に溶け込んでしまい、鳥たちの食料源として定着しているようです。果たして手放しでこの状態を認めて良いものかどうか難しいところですね。

芝川の土手でタンポポの綿毛に乗っているベニシジミを見つけました。まだ、早いせいでしょうか、ほとんど動きません。

そっと近づいて、ゆっくりと写真を撮ることができました。対岸で、カイツブリのペアが巣の補強を行なっているのが見えました。真白な卵が2つ巣の上にあります。

カイツブリが抱卵中の巣から離れるときは、必ず卵に巣材の草などをかぶせ、白い卵が目立たないようにして出て行きます。その早いこと、ゆっくり写真を撮る暇がありません。このペアはまだ卵を産み足し中なのでしょうか、卵が見えるままにして、作業をしていました。雛が孵ると、親が小さい雛を背

中に乗せているのが見られます。もしかしたら、皆さんがこの原稿をご覧になるころは、ちょうど良いときかもしれません。お暇があれば、石橋から上流に向かい右側の土手を歩き対岸を見て下さい。

やや遠くからオオヨシキリの声が聞こえてきました。この鳥は以前に比べ数がかなり減ってしまいました、越冬地の環境問題でしょうか。

鷺山橋の上流側直下にバンの巣が見えました。茶色味がかかった卵もいくつか見られます。バンの真っ黒な雛はとても可愛いですよ。こちらもうじき見られますね。

(NPO 法人自然観察さいたまフレンド 小峯)



カイツブリのペアと2つの卵

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



もとiri
「見沼元塚公園・樋守弁才天」(行田市・下中条)

利根を背にした井沢弥惣兵衛為永を祀る神社。見沼代用水取水口建設のとき安全を祈って設けた弁財天も合祀されている(開祭250年記念事業)。ここは利根川からの最初の取水場所で、現在は、1968年に東に移動している。



「合併記念見沼公園」(さいたま市大宮区)

さいたま市合併を記念して、自治医大病院の南に07年4月に設立された公園。自然をなるべく残すという趣旨によって造られた飾りのない環境は、開祭以前の見沼の原風景を偲ばせる。



「囲炉裏」(旧坂東家住宅見沼くらしっく館)

坂東家は、紀州加田村出身で、今から350年まえに江戸に出て、加田屋の屋号で事業を興し、次いで見沼を開祭した先見者。この屋敷は、1857年(安政4年)建築されたもので、今も囲炉裏端で温かいお茶の接待が受けられるのは嬉しいことである。



「鷲神社」(さいたま市緑区南部領辻)

深いふるさとの森に囲まれた由緒ある神社。素朴でしかも力強い動きのある「獅子舞」(5・10月開催)は、氏子有志によって伝承されている貴重な文化財。

見沼たんぼの仲間たち No. 9

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

NPO 法人 見沼保全じゃぶじゃぶラボ

5年前から「不耕起移植栽培」によるお米作りを行っています。

1 設立の経緯などについて

私たちは約20年前から見沼たんぼの保全活動を続けてきました。1995年に作られた見沼田圃土地利用方針で、治水の他に、自然環境を保全する事が決められたことは、大変うれしいことでした。

その見沼に、わずかでもたんぼと自然環境を保全、復活するために、私たちは5年前から「不耕起移植栽培」によるお米作りを始めました。これは千葉県在住の岩澤信夫さんが研究してきた農法です。

このたんぼ作りをきっかけに、今までボランティアで見沼の保全活動を続けてきた私たちは、これから先も継続していくために、「NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボ」を設立しました。

「不耕起移植栽培」のお米作りはたんぼを耕しません。冬もたんぼに水を入れておくので雑草が少なく、稲藁と微生物が、生き物が豊かに育つたんぼ環境に整えてくれます。農薬も化学肥料も使いません。岩澤信夫さんによると、従来の耕す水田と不耕起たんぼを比べた場合、不耕起はメタンガスの発生が13分1、石油換算のエネルギー消費量は、6分の1となるそうです。「不耕起移植栽培」は省力化と環境を守る、2つのことが実現できる農法です。



2 今後の活動スケジュール及び内容

どなたでもご参加ください。ブログ「見沼不耕起たんぼ日記」<http://jabujabu.exblog.jp/>にアクセスしてください。

*たんぼ作業&自然観察会

- ・6/21 (土)、7/5 (土)、7/19 (土) 午前9時～
- ・7/26 (土)、8/9 (土)、8/23 (土) 午前6時～
- ・9/6 (土)、9/20 (土)、9/27 (土)、10/11 (土)、10/17 (金)、10/15 (土) 午前9時～

*収穫祭

- ・11/15 (土) 午前11時半～於トラスト地あずまや

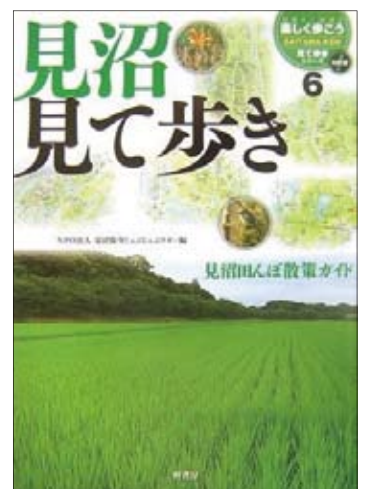
3 不耕起栽培たんぼ参加者の感想

- ・たんぼの作業は大変だけど、みんなと一緒に作業すると、とても楽しい。
- ・たんぼに生えている草が少ない。ずーと水が入っているからかしら。
- ・カエルやクモ、トンボや野鳥がたくさんいるたんぼだね。
- ・なんととっても、出来たお米がおいしいのがうれしいです！

4 「見沼見て歩き」のPR等

今までの見沼たんぼでの活動の中から、「見沼見て歩き」(幹書房)という本を昨年、出版しました。

全部、カラー写真です。とてもきれいな本です。見沼が好きの人がもっと見沼が好きになる本です。この本を読んで、見沼の事を知り、見沼のいろいろな楽しみ方を知っていただけたらうれしく思います。ぜひ読んでみてください。



NPO 法人 見沼保全じゃぶじゃぶラボ
代表理事 小林 節子
ブログ 「見沼不耕起たんぼ日記」
<http://jabujabu.exblog.jp/>

見沼たんぼの仲間たち No. 10

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

(本号は、「見沼おもしろ昔ばなし」休載のため「見沼たんぼの仲間たち」を2団体掲載します。)

浦和西高斜面林友の会

浦和西高の斜面林を水田が豊かだったころの里山に戻す作業をしています。

1 浦和西高開放講座からのスタート

浦和西高では、地域住民、PTA 会員などを対象として、地域の自然を主なテーマに、「浦和西高開放講座」が毎年継続して開講されています。浦和西高斜面林友の会の立ち上げは、この開放講座がきっかけでした。

開放講座に関わった多くの人は、「西高周辺の『見沼たんぼ』と台地の斜面には、豊かな自然が残されている」と思っていました。しかし実態は、社会環境変化の中、地域の人々の生活と密接に結びついて維持されてきた雑木林の管理は放棄され、荒廃が進んでいることが明らかでした。

見沼代用水西縁に面した浦和西高校の敷地内にある約 4000㎡（奥行 20 m × 幅 200 m）の斜面林も例外ではなく、コナラ、クヌギやイヌシデなどの落葉広葉樹の高木化と、シラカシやシロダモなどの常緑広葉樹の進出により、林床は下草も生えないほど日当たりが悪くなっていました。このような状況を放置しておけば、落葉広葉樹の実生が育たず、世代交代もできないまま、地域の里山の景観とはかけ離れた常緑樹ばかりの極相林へ遷移してしまいます。

地域の雑木林のほとんどは民有地で、開発と都市化が進み、今後も里山として維持・管理されていくことは難しい状況にあります。「せめて、県有地の西高の斜面林だけでも、地域のあるべき美しい自然として残せないか」というのが、多くの関係者の共通した気持ちでした。

2 浦和西高斜面林友の会の立ち上げ

2003 年 3 月、開放講座を担当してきた教員と受講者代表が浦和西高校の地学室に集まり、「浦和西高斜面林再生と活用（仮称）ボランティア」を立ち上げる事務局会議が開かれ、次のような活動方針が確認されました。

①開放講座で得た知識や経験を基に、西高斜面林を地域の本来の雑木林の姿として再生する。

②斜面林の現状を調査・記録し、その結果を踏まえて再生・保存する。

③活動の主体は浦和西高校だが、活動の企画・運営に当たっては地域ボランティアと共同作業とする。

④西高斜面林を地域に残された貴重な自然と位置付け、地域住民とボランティアを中心に活動する。

開放講座受講者のネットワークを利用してボランティアの募集が行われ、地域住民、浦和西高 PTA・後援会会員、生徒など約 40 名の広範な人々が集まりました。2003 年 5 月に第 1 回の活動が行なわれ、現在はボランティア組織の名称も「浦和西高斜面林友の会」に決まり、事務局を浦和西高校に設け、活動しています。

3 活動内容の紹介

見沼代用水西縁に面する埼玉県立浦和西高の斜面林を水田が豊かだったころの斜面林に戻す作業をしています。

毎月第 2 土曜日の午前中に斜面林の草刈り、枝打ち、斜面の保全、落ち葉かき、堆肥作り、育苗、植え付け、植生調査などを行っています。作業前に会員が講師となり 10 分間講座をしています。



浦和西高斜面林友の会
代表 中村克己 会員数 40 名
H P <http://members.jcom.home.ne.jp/o-gami/>

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

- ① 企画展「夏休み子ども博物館」
期間：7月19日(土)～8月31日(日)
内容：小学生を対象に、縄文人の顔、大昔の人々の暮らし、見沼通船堀などをテーマにしたミニ展示
- ② 特別展「100年前のさいたま」
期間：7月19日(土)～8月31日(日)
内容：埼玉サッカー100周年記念事業の一環として、浦和博物館とサッカーとの接点である師範学校とまちを中心とした展示

2 三室地区定例探鳥会

日時：7月20日、8月17日、9月21日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分

集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉県支部

参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

3 教育普及事業

- ① 「昔のあそび」 7月24日(木)～7月27日(日)
時間：10:00～12:00、13:00～15:00
内容：竹馬、ベーゴマ、おはじき、竹トンボなど昔の子どものあそびに挑戦。
参加費：無料(自由参加)
- ② 「昔のおもちゃ作り」 7月26日(土)
時間：10時～12時、13時～15時
内容：ストローで動く人形を作ってあそぼう。
参加費：10円(材料費)(自由参加)
- ③ 「クイズ大会」 7月27日(日)
時間：10時～12時、13時～15時
内容：館内の展示を見て、クイズに答えよう。すてきな景品付き。
参加費：無料(自由参加)
- ④ 「文化財さがし」 8月1日(金)～31日(日)
内容：博物館の中にある文化財をさがしてみよう。
- ⑤ 「見沼通船堀のしくみ」 8月9日(土)～10日(日)
時間：11時～11時半、14時～14時半
内容：博物館の中にある模型を使って実験する。

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 夏休み親子チャレンジ教室 (小学生以上親子対象講座)

No	講座名	月日(全て10時～12時)	材料費	申し込み締め切り
1	鬼瓦が付いた表札(焼き物)づくり	7/27(日)	1200円	7/11(金)
2	箱のお化け屋敷	7/29(火)	500円	
3	藍染(生葉染め)ハンカチづくり	7/30(水)	600円	
4	風で動くおもちゃ	8/3(日)	500円	7/18(金)
5	木の実で作るマスコット	8/6(水)	500円	
6	動くおもちゃ～宇宙人あらわる～	8/8(金)	500円	
7	竹の水鉄砲をつくる	8/10(日)	100円	

② もの作り講座(中学生以上一般対象講座)

8	フローリングで履く布ぞうり作り①	7/25(金)	100円	7/11(金)
9	フローリングで履く布ぞうり作り②	7/26(土)	100円	
10	見沼塾「藍染(生葉染め)スカーフづくり」	8/5(火)	1500円	

③ 民俗講座(小学生以上親子及び一般対象講座)

11	見沼塾「柿渋のうちわづくり」(2回講座)	7/31(木) 8/7(木)	800円	7/18(金)
12	七夕行事～作る・書く・飾る～	8/2(土)	100円	

■ No1～12講座共通

会場：浦和くらしの博物館民家園
定員：各講座20名(応募多数の場合は抽選)

申込み：締め切りまでに往復はがきに参加する方全員の住所・氏名・親子の場合は学年・電話番号・希望する講座名(講座ごとに往復はがき1枚)を記入し、浦和くらしの博物館民家園へ。

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
はじめての俳句	7月13日(日)	9時半～12時	10名
エコバックを作ろう!	7月29日(火)	13時～15時	10名
すす竹で長い靴べら作り	8月12日(火)	13時～15時	10名
堆朱の箸作り	8月13日(水)	13時～15時	10名
水牛角のペンダント作り	8月14日(木)	13時～15時	10名
赤い鼻緒の桐下駄作り	8月15日(金)	13時～15時	10名

② 演奏会・寄席(定員なし/無料)

歌声喫茶「白露」へようこそ	9月7日(日)	14時～16時
十五夜観月会(邦楽のしらべ)	9月14日(日)	18時～20時
天高く馬肥ゆる音楽会	9月21日(日)	14時～16時
くらしっくコンサート(チェロ)	9月28日(日)	14時～16時

③ 公開講座(定員なし/無料)

初山の朝饅頭作り	7月1日(火)	10時～13時
七夕馬と昼饅頭作り	7月5日(土)	10時～13時

④ 親子教室(定員あり/無料)

じゃがいも掘りとかまどの火	7月12日(土)	10時～13時	15組
ゴム粘土でストラップを作ろう!	7月30日(水)	13時～15時	10組
竹とんぼ実践教室	8月20日(水)	13時～15時	10組
ベーゴマ教室	8月27日(水)	13時～15時	10組

⑤ 子ども体験講座(定員なし/無料)

夏休みの工作を応援します!	7月12日(土)～8月31日(日)	
夏の遊び体験教室	7月26日(土)	13時～15時

2 企画展示

「編む 一草・藁・竹の造形」	6月10日(火)～7月13日(日)
「音の造形」	9月9日(火)～10月5日(日)

3 季節展示

「七夕飾り」	7月2日(水)～7月6日(日)
「坂東家の盆棚飾り」	8月1日(金)～8月15日(金)
「十五夜飾り」	9月10日(水)～9月14日(日)

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 子供動物園スタンプラリー

期日：平成20年9月20日(土)～9月25日(木) 10時～16時
(ただし、22日(月)は休園日のため休み)

会場：子供動物園内

対象：小学生以下の方

内容：動物を観察しながら、5ヶ所のスタンプを集めてもらう。全問正解者に記念品を配布

大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

大宮公園写真コンクール入賞作品展	7月1日(火)～7月13日(日)
創作どんぐり人形展	7月8日(火)～7月13日(日)
インターハイの歴史展示	7月20日(日)～8月9日(土)
四季を描く会合同展	9月8日(月)～9月14日(日)
ごてんまりの展示	9月15日(月)～9月21日(日)
つばみの会水彩画展	9月22日(月)～9月28日(日)

見沼たんぼくらぶのイベント案内

第35回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

－ 合併記念見沼公園から中山神社へ －
日 時：9月21日（日）9時～12時
集合場所：合併記念見沼公園集合
（自治医大南側の新設公園）
コ ー ス：合併記念見沼公園⇒大宮南部浄化センター⇒
田圃⇒円蔵院⇒中山神社
申 込 み：当日、合併記念見沼公園管理棟で8時30分
より受付
参 加 費：¥500（会員及び中学生以下は無料）
交 通：大宮駅東口よりバス④自治医大行き終点下車
（約10分乗車）
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野

第62回見沼塾 『藍染（生葉染め）スカーフ作り』

日 時：8月5日（火）10時～12時
場 所：浦和くらしの博物館民家園
内 容：絹のスカーフを染める体験講座
申し込み：7月11日（金）までに往復はがきに参加す
る方全員の住所・氏名・電話番号・希望する
講座名を記入し、浦和くらしの民家園へ
参 加 費：1500円
そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です

第61回見沼塾 『七夕馬と昼うどん作り』

日 時：7月5日（土）10時～13時
場 所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
内 容：七夕馬作りと、行事食「昼饅頭」作りの公開
講座
申 込 み：なし
参 加 費：なし
そ の 他：旧坂東家住宅見沼くらしっく館との共同実施
です

第63回見沼塾 『柿渋のうちわ作り』

日 時：2回講座
7月31日（木）10時～12時
8月7日（木）10時～12時
場 所：浦和くらしの博物館民家園
内 容：見沼の特産「柿渋」を使ったうちわ作り。2
日間で完成します。
申し込み：7月18日（金）までに往復はがきに参加す
る方全員の住所・氏名・電話番号・希望する
講座名を記入し、浦和くらしの民家園へ
参 加 費：800円
そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしま
しょう！事務局から入会案内をお送りします！

（編集・発行）見沼たんぼくらぶ
〒337-0053
さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方
TEL・FAX：(048) 683-1764
URL：<http://minumatanbo.web.fc2.com/>

見沼たんぼくらぶ会長
野崎 初太郎